

# ティーンズ通信

## ～北村薫特集号～

NO.38 2016年6月発行

川口市立図書館発行

### 「空飛ぶ馬」

北村薫/著  
東京創元社（創元推理文庫） Y913

本を読む大学生の「私」は、落語家の円紫さんに出会ったことで、日常に潜む小さな謎を解き明かしていくことになる。ミステリ界において「日常の謎派」とよばれるジャンルを確立した、北村薫のデビュー作。

### 「野球の国のアリス」

北村薫/著  
講談社（講談社文庫） Y913

女の子ながら少年野球のピッチャーをつとめるアリス。でも、アリスは中学の野球部には入れない。不思議な鏡を通って行った先に、左右逆転したもう一つの世界があった…。もう一つの世界でアリスは最後のボールを投げる。

### 「月の砂漠をさばさばと」

北村薫/著 おーなり 由子/絵  
新潮社（新潮文庫） Y913

さきちゃんのお母さんは、お話をつくるのがお仕事。さきちゃんは寝る前に、お母さんからできたてのお話をきくことができます。家や学校での何気ないけど、心が温かくなるような2人の日々がつつられています。

### 「ミステリ十二か月」

北村薫/著  
中央公論新社 Y902

大の本好き・ミステリ好きの北村薫さんが、小中学生に向けて、古今東西のおすすめのミステリを紹介しています。ミステリの入門書として最適な1冊です。かわいい猫のイラストとともにどうぞ。

中央図書館は今年の7月に開館10周年を迎えます。それを記念して、作家の北村薫さんをお招きし、トークイベントを行います。ティーンズのみなさんにおすすめしたい北村薫さんの本がたくさんありますので、この機会にたくさん読んで、講演会に参加してみませんか？

中央図書館開館10周年記念講演会

北村薫氏 『読むこと、書くこと』

日時 平成28年7月23日（土） 14時00分～16時00分  
会場 フレンドシア（キュポール4階）  
定員 300名（申し込み多数の場合は抽選）  
対象 中学生以上  
参加費 無料  
応募方法 往復はがき  
往信欄に①氏名（ふりがな）②住所③電話番号④年齢、返信欄に返信先をそれぞれご記入の上、下記の宛先までお送りください。  
宛先 〒332-0015 川口市川口 1-1-1  
川口市立中央図書館 講演会係  
締め切り 平成28年6月19日（日）必着

※職員等とのトーク形式で行います。

※はがきは一人一枚お送りください。

※北村薫さんへの質問がある方は、応募はがきにご記入ください。

※小学生以下は入場できません。

問い合わせ先 川口市立中央図書館 048-227-7611

この講演会は終了しています。

# ～時間～

北村薫さんの代表作の一つに、時間をテーマにした「時と人」シリーズ3部作があります。また、他にも多くの作家が時間について書いています。色々な時間の本を読んでみましょう。

## 北村薫 「時と人」シリーズ

時間の流れが変わってしまった時、  
人はどうやって生きていくのでしょうか？  
そんなことを考えさせられる3冊です。

### 「ターン」

北村薫/著  
新潮社（新潮文庫） Y913

真希は交通事故にあったはずだった…しかし、ふと気が付くと、自宅の座椅子で目が覚めた。平穏な日常の続きのようだったが、この世界には真希以外誰もいなかった。そして、時間は前に進むことなく、3時15分になると、時間はくるりと回って、自宅の座椅子に戻ってしまう…。

### 「スキップ」

北村薫/著  
新潮社（新潮文庫） Y913

一ノ瀬真理子、17歳。体育祭の後、家に帰って目が覚めたとき…真理子は42歳になっていた。自分には夫と17歳の娘がいるという。25年の時を飛び越え、17歳の心と強い意志を持って、真理子は歩き出す。

### 「リセット」

北村薫/著  
新潮社（新潮文庫） Y913

昭和20年。真澄は女学生だった。明日空襲があれば、命はないかもしれない。疎開の前日、真澄は必死の思いで、心を通わせた修一を訪ねた。そして、「また会おう」と彼は言ったのに…。  
真澄と修一のそれぞれの時間は流れ、そして再びめぐり合う。

### 「月下花伝」

越水利江子/著  
大日本図書 Y913

古流剣術家の祖父の影響で剣術を習っていた女の子の秋飛。祖父の亡きあと、ひとり道場でお気に入りのフィルムを映すと、映画の中の新撰組の沖田総司が秋飛の前にあらわれる。幕末と現代が交錯するファンタジー作品。続編の「花天新選組」も読んでみよう。

### 「時をさまようタック」

ナタリー・バビット/作 小野和子/訳  
評論社 Y933

ウィニーという10歳の女の子が森で出会ったタック一家には、重大な秘密があった。何十年も前に、ある泉の水を飲んでしまったために、彼らは年を取ることも、死ぬこともできなくなってしまったのだった。タック一家とウィニーの間に不思議なきずなが生まれ、そして、秘密をめぐる大事件が起こる。

### 「ゲイルズバーグの春を愛す」

ジャック・フィニイ/作 福島正実/訳  
早川書房（ハヤカワ文庫 FT） B933.7

イリノイ州ゲイルズバーグに住む「私」は、古い街並みが残るこの街を愛していた。この街では、次々に不思議な事が起こる。数十年前に無くなったはずの市電や旧式の消防車が出現するのだ。まるで、「過去」が「現在」に戦いを挑むように…。表題作の他9編を収録した短編集。